

タイトル

船場 ケンチュク借景 カフェ

船場地区に残るレトロな近代建築を
“借景”したカフェづくりと、ロケーションを
効率的にマッチングできる仕組みの提案



アピールポイント

- 船場に多数存在する近代建築をリノベーションした店舗利用は、すでに多数の事例があるが、近代建築を“借景”として打ち出す店舗利用は新しいコンセプト
- 近代建築が“借景”利用されることで、その近代建築のみならずエリア全体の価値向上につながる。また、まちとして近代建築を応援する仕組みづくり
- 長い刻が感じられるレトロビルを眺めるカフェを、船場で忙しくはたらくビジネスパーソンの癒しの場として提供する

アイデア① ケンチュク借景カフェづくり

船場地区には、戦前からの近代建築が数多く残っています。生駒ビルディング(1930年)、綿業会館(1931年)、大阪ガスビル(1933年)などなど。ビルをリノベーションして、おしゃれなレストランなどに活用している事例もみられます(ルポンドシエルビル・1926年など)。

一方、このエリアには公園や緑が少なく、ちょっとごみごみした印象も受けます。おしゃれなレストランに入っても、見えるのはおとなりの雑居ビルか、マンションのエントランス・・・。

そこで、エリアに残るレトロな近代建築を“借景”として取り込むカフェづくりを提案します。お隣のカフェの窓から、長い刻を経てたたくレトロなビルを眺めてリラックス。お向かいのビストロの窓から、夜、ライトアップされたレトロビルを背景に、ムードに浸る。忙しくはたらく船場のビジネスパーソンにとって、お気に入りスポットに。

アイデア② ケンチュク借景カフェ 応援のしくみ

“借景”が可能な物件情報は、船場のまちをこよなく愛するまちづくりNPO団体に集約し、広報活動等を展開。また、コーヒー代の一部は、お店を通じて“借景”されるレトロビルに修繕費として寄付します。



北船場エリアの主な近代建築

参考文献：生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪2018ガイドブック